

教科書の「教師用指導書」には相変わらず的外れで怪しげな指導例が載っている。そんな間違っただけの指導例を鵜呑みにして授業をしているのは、いつまでたっても本物の指導力は身につかない。

指導書が授業をするのではない、授業者が授業をするのだ。指導案は人の借り物ではいけない。自分が考えた指導案には授業者の意思が宿る。それを伝えるのが「道徳」だ。

最初は授業が下手でも、だんだんよい授業ができるようになる。自分で考えて行った授業の良し悪しはみんな子供が教えてくれる。だから、授業改善は子供に習え。教師用指導書は見てはならない。

どうしても見たいなら、まず自分で指導案を作ってからにしよう。すると、その違いは歴然とするはずだ。

その1 よい教材を選ぶ！（教材選択）※道徳科学習指導案作成③×3 入門レッスン④参照

教材は児童生徒の内面を映す鏡であり、生き方の糧となるもので、道徳科授業の命といえる。

よい教材とは「ねらいにあって」「わかりやすい」「興味・関心もてる」「ライブ感がある」教材のことをいう。

その2 「主題設定の理由（授業者の指導観）」を述べる！

(1) **ねらいとする道徳的価値について** ※道徳科学習指導案作成③×3 入門レッスン②参照

本時の「ねらいとする道徳的価値」とは一体何か、この価値は人間がよりよく生きる上でどのような意味や意義があるのか、そしてこの価値はどうしたら身に付き実現するのかについての授業者の考えを書く。（その際、「解説 特別の教科 道徳編」第3章 第2節の(1)内容項目の概要を手掛かりにするとよい。）

(2) **児童生徒の実態について** ※道徳科学習指導案作成③×3 入門レッスン③参照

ここには本時の主題を基に、児童生徒の実態を意識面（内面）と行動面の両面から総合的に捉えて考察し、本時での指導の重点を述べる。その際、単に短所や欠点を指摘し、それを直そうとするのではなく、今できている（すでに身に付いている）よさを具体的に明らかにすることに努める。（まず、児童生徒の欠点や短所を指摘しないで実態を述べてみよう。）

(3) **教材について** ※道徳科学習指導案作成③×3 入門レッスン④参照

使用する教材の選択理由と本教材の生かし方（扱い方）を具体的に述べる。
（原作がある教材は原作を調べてみるとよい！）

その3 本時のねらいを立てる！ ※道徳科学習指導案作成③×3 入門レッスン①参照

「本時のねらい」は授業の出口を示すもの、授業中に教師が迷子にならないよう教師のために立てるもの。ねらいが曖昧だと授業がぶれる。

内容項目と本時の主題と主題設定理由とを勘案して、具体的で分かりやすいねらいを立てる。その際、ねらいの語尾（道徳的心情、道徳的判断力、道徳的实践意欲と態度）についてよく吟味する。
（道徳的心情はあらゆる道徳性の基盤であり、土台となるものである）

その4 「学習指導過程」を作る！

- (1) **「展開の前段」の発問を構成する** ※道徳科学習指導案作成③×3 入門レッスン⑤、⑥参照
- 「展開の前段」では、教材の登場人物に自己を投影しながら（自我関与しながら）、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めていく学習を行う。
- 教材分析表を基に
- ① 中心発問場面を1つ決める。
 - ② 中心発問を支える基本発問場面を2つ決める。
 - ③ 決めた3場面の発問（表現）を具体的に作る。

(2) 「展開の後段」を考える

※道徳科学習指導案作成^超×3 入門レッスン⑦参照

「展開の後段」では、展開の前段で深めた道徳的価値（主題）の理解・自覚に基づき、自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深める学習を行う。（その際、子供の人権には十分配慮すること！）

(3) 「導入」を考える

※道徳科学習指導案作成^超×3 入門レッスン⑧参照

導入は子供が学習課題（学習の方向）をつかみ、学習意欲をもつ学習を行う。（価値への導入が基本）

(4) 「終末」を考える

※道徳科学習指導案作成^超×3 入門レッスン⑨参照

終末は、学習を振り返り、学習をまとめ、ポジティブな気持ちが自ずと湧くような学習を行う。

その5 評価の視点と評価方法を考える！ ※道徳科学習指導案作成^超×3 入門レッスン⑩参照

道徳科の評価では児童生徒の「学習状況」を具体的に把握する（評価する）ことが大切である。それが評価材となり、その積み重ねによって見えてくるのが「道徳性に係る成長の様子」である。

「学習状況」の把握を行う際は、把握場面と把握方法を具体的に明記しておく。

その6 「指導上の留意点」を整理する！ ※道徳科学習指導案作成^超×3 入門レッスン⑪参照

ここには、授業を行う際に教師が気を付けることを具体的に書く。学習活動の指示、補助発問、板書、座席配置などを書いておくとよい。教師のための備忘録と理解すればよい。（指導意図のようなことなどは書かなくてもよい）

☆「道徳科学習指導案作成^超×3 入門」は「後藤忠のホームページ」から入手できる。

- 表紙も含めてすべて両面印刷し、右綴じにすると各レッスンが見開きになって使いやすい。

最重要課題

道徳科学習指導案作成や道徳の授業では「本時の主題」を徹底的に意識しよう！

※道徳科学習指導案作成^超×3 入門レッスン①参照

道徳科の主題は、「ねらいとする道徳的価値(内容項目)」と、それを達成するための「教材」によって構成される。（主題名は、ねらいとする道徳的価値と教材で構成された主題内容を端的に表したものである。）

ねらいとする道徳的価値(内容項目)は、それ自体きわめて一般的で抽象的である。それを具体的にするのが「教材」である。つまり、教材によって指導の内容が具体的になる。

道徳科の授業を計画する際には、この主題を徹底的に意識することが大切である。

「本時のねらい」をはじめ、「主題設定の理由」や学習指導過程の「導入」「展開」「終末」「評価」まで、一貫して「本時の主題」を意識して、その主題から外れないように指導案を作成し、授業を行うことが重要である。

したがって、授業者は「本時の主題は何か？」を常に自問自答し、主題を確かめながら進めていくことが大事である。主題に対する授業者の意識が授業の質を決めると言うてよいと思う。